

本書のケースの特徴と主な支援方法（着眼点）

章節（ページ）	対象 児童生徒	児童生徒の特徴	主な支援方法 （着眼点）
プロローグ(p5)	小4 A 男	授業中の立ち歩き	三項随伴性 相互随伴性
1-1(p12)	中3 B 子	コミュニケーション 困難	機能分析による行動理解
1-2(p20)	中2 D 男	相談室登校	行動範囲の拡大 環境調整
1-3(p28)	中2 E 子	保健室頻回来室	行動観察 回避行動への対応
1-4(p37)	高2 F 子	不本意入学	ソーシャルスキル トレーニング
1-5(p45)	中2 G 男	不登校	継時的近接法 保護者への対応
1-6(p54)	中3 I 男	粗暴傾向	適応行動への置換 (代替行動分化強化)
1-7(p62)	中3 I 男	粗暴傾向	生徒指導的対応と 教育相談的対応
1-8(p69)	小4 A 男	授業中の立ち歩き	ケースフォーミュレーション 計画的無視
1-9(p77)	中3 K 男	強迫症	曝露反応妨害法 (エクスポージャー)
1-10(p84)	中2 L 子	相談室登校 交友困難	認知再構成法、コラム法 (認知的再体制化)
1-11(p93)	中3 O 子	交友困難	問題解決訓練
1-12(p102)	中1 R 子	交友困難	セルフモニタリング法
2-1(p110)	中3 S 子	不登校	機能的役割分担
2-2(p118)	小5 T 子	交友困難	行動コンサルテーション
2-3(p125)	中3 U 子	街頭補導による保護	相談室のオープン利用
2-4(p134)	中2 X 子	他害行為 (特別支援教育)	保護者と支援者(学校)の相互作用 の調整、支援目標の共有と役割分担
2-5(p141)	小3 Y 子	多動、教室飛び出し	注意機能のコントロール (随伴性マネジメント)
2-6(p149)	小1 Z 男	指示不従順	支援目標の設定
2-7(p157)	中2 H 子	相談室登校	機会利用型支援 (学校行事等)
エピローグ(p164)	中2 α 子	断続登校、交友困難	支援の見取り図 (マクロ分析等)